



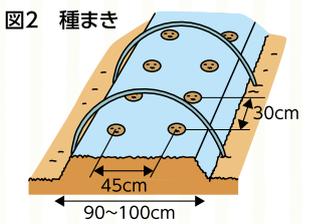
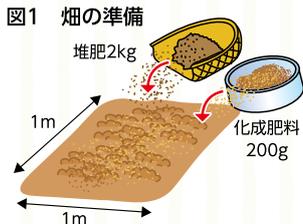
スイートコーン(イネ科トウモロコシ属)

旬の時期とはひと味違う味わいを楽しめるように遅く収穫する方法、抑制栽培に挑戦してみませんか。中間地では7月中旬〜8月中旬に種まきし、種まき後88日程度で収穫できます。8月下旬以降の種まきでは栽培後半の気温が不足し、穂が十分に肥大しません。

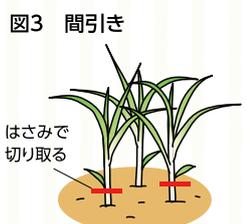
【品種】抑制栽培では生育初期が高温で経過するため、早生品種では十分な葉数が展開する前に出穂し、穂の肥大が不足します。そのため、高温期でもじっくり生長する中生品種の「ゴールドラッシュ90」(サカタのタネ)や「おひさまコーン88」(タキイ種苗)などが適しています。

【畑の準備】畑1平方m当たり苦土石灰100gを化成肥料(NPK各成分10%)200gと堆肥2kgを全面に施し、土とよく混ぜておきます(図1)。2条まきでは、幅90〜100cmの栽培床(ベッド)を作り、ベッドを平らにならした後、地温の上昇を防ぐ白マルチをします。

【種まき・間引き】株間30cm程度、1カ所3、4粒の点播(てんぱ)にし、害虫予防のため防虫トンネルで被覆します(図2)。なお、1、2株の栽培や1列のみでは花粉が不足しやすいので10株以上にまとめて栽培してください。草丈10〜15cmで生育の良い1株を残し、間引く苗をはさみで切り取り1本立ちにします(図3)。



【追肥・水やり】1回目の追肥は草丈50〜60cmの頃、1平方m当たり100gをベッドの両側に与え、株元へ土寄せします。雄穂が出る頃に同様の量を通路に施し中耕します。株元から2、3本の脇芽が出ますが、特に取り除く必要はありません(無除けつ)。その後、雌穂が2、3本付き、上の1番穂が大きくなるので、これを収穫します。下に

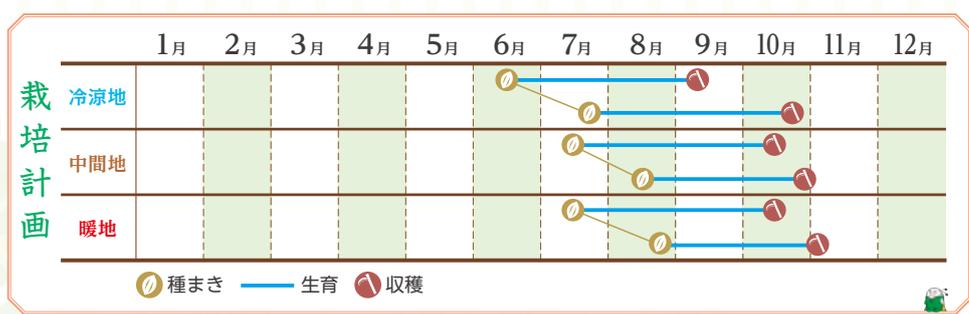


付く穂はあまり大きくならないため、残しておいても構いません(無除房)(図4)。晴天が続き水不足となると子実の肥大に影響するため、十分な水やりをします。



【病害虫防除】アワノメイガやアブラムシなど害虫が多く飛来する作型のため、予防的な農薬散布が必要です。雄穂が出る頃にアワノメイガが飛来して、幼虫は雄穂や雌穂(子実)に食い入ってしまいます。雄穂の始めに登録農薬を株の上から散布します。収穫期には防鳥ネットなどでカラスやハクビシンの被害を防ぎます。

【収穫】収穫適期は絹糸が出てから25日前後ですが、絹糸抽出期以降の気温によって前後しますので、予定日が近づいたら試してみぎして、先端粒の張り具合を見て収穫適期を決定します。朝もぎがみぎみぎしくおいしいので、早朝に収穫しましょう。



JAグリーン津店が
スイートコーン
栽培のポイント
教えます!

JAグリーン津店
店長 松井 茂樹

トウモロコシの中で特に甘みの強い品種の総称がスイートコーンです。栽培が容易で広い場所も必要なく、手軽に楽しめる野菜です。高温で日当たりのよい場所を好みますが、違う品種が近くにあると、違う品種の花粉が飛んできて受粉してしまい、色や味が変わってしまうため注意しましょう。

【クリーニンングクroppとして利用】イネ科なので一般の野菜との関連病害がほとんどなく、土壌中に残っている肥料分を吸収する能力が高いため、畑のクリーニンングクroppとして利用できます。

長年の栽培で塩類集積や連作障害などで、作物がうまく育たない場合はスイートコーンを作付けするとよいでしょう。

【害虫予防】トウモロコシの実が食べられていたことはありませんか。これは大敵アワノメイガという害虫の仕業かもしれません。そこでトウモロコシ専用殺虫剤として「三明デナポン粒剤5」がおススメです。

使用方法は、雄穂の始め、雌穂の始めに2回散布することで害虫予防が期待できます。使用時期としては収穫21日前までとなりますのでご注意ください。

三明デナポン粒剤 5 200g
810円(税込)